

外交史Ⅱ

科目ナンバリング INR-102
選択 2単位

山口 航

1. 授業の概要(ねらい)

この講義では、第二次世界大戦後の米国外交に焦点を合わせ、外交史の基本的な流れを論じていく。外交の基本的なしくみや今日的な課題などを幅広く学ぶ。

2. 授業の到達目標

- 1) 外交史における基本的な知識を有し、幅広い教養と倫理観を身につけて、論点を把握することができる。
- 2) 外交史に関して、多様な問題の本質を分析することができる。
- 3) 今日の外交の諸問題をより深く理解することができるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- 1) 平常点 30%(リアクションペーパーなど)
- 2) ブック・レポート 20%
- 3) 期末試験 50%(授業内で解説。理解度、論理性、体裁の観点から評価する)

4. 教科書・参考文献

教科書

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編 『現代アメリカ政治外交史——「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』ミネルヴァ書房、2020年

参考文献

モーリス・ヴァイス(細谷雄一・宮下雄一郎監訳) 『戦後国際関係史——二極化世界から混迷の時代へ』 慶應義塾大学出版会、2018年

5. 準備学修の内容

教科書の該当箇所を読むこと。

より深く学びたい人は、参考文献(適宜授業中に紹介する)も読むこと。

継続してニュースに接する習慣を身につけること。

6. その他履修上の注意事項

ノートをしっかり取ること。

外交史Iも受講すると理解が深まる。

受講者の関心や社会の情勢に合わせて、授業計画の変更もあり得る。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 現代大統領制と戦間期の危機——フランクリン・D・ローズヴェルト政権の内政と外交(オンライン授業の予定)
- 【第3回】 新しい時代の幕開け——ハリー・S・トルーマン
- 【第4回】 「アメリカの世紀」の大統領——ドワイト・D・アイゼンハワー
- 【第5回】 ニュー・フロンティアへの挑戦——ジョン・F・ケネディ
- 【第6回】 戦後アメリカ自由民主主義の変容——リンドン・B・ジョンソン
- 【第7回】 非民主的政治外交の展開とその限界——リチャード・M・ニクソン、ジェラルド・R・フォード
- 【第8回】 未完の物語——ジェームズ・E・カーター
- 【第9回】 新保守主義の内政と外交——ロナルド・W・レーガン
- 【第10回】 冷戦終結と分裂するアメリカ社会——ジョージ・H・W・ブッシュ
- 【第11回】 中道路線と冷戦後秩序の模索——ウィリアム・J・クリントン
- 【第12回】 「思いやりのある保守主義」と「対テロ戦争」——ジョージ・W・ブッシュ
- 【第13回】 政治の分極化と対外関与負担の抑制——バラク・H・オバマ
- 【第14回】 「例外」の国の例外?——ドナルド・J・トランプ
- 【第15回】 まとめ